

TFU

No. **94**

令和2年1月29日発行

発行所 東北福祉大学

発行者 千葉公慈

〒981-8522 仙台市青葉区国見1丁目8の1

TEL (022) 233-3111

<https://www.tfu.ac.jp>

Newsletter

東北福祉大学通信

CONTENTS

CAMPUS TOPICS

消防×学生による全国初の点検アプリ完成

SPORTS NEWS

ゴルフ部金谷選手が快挙！
アマ4人目プロツアー優勝

ACTIVITY REPORT

ラウレア応用科学大学との
プロジェクトが続々進行中

EVENT REPORT

学生主体の採択事業実施

INFORMATION

小川特任教授に
内閣総理大臣賞

EVENT NEWS

学生たちは力を合わせ、浸水した被災家屋から畳を外し運び出す=2019年10月、角田市



消防×学生による全国初の点検アプリ完成！



運用前日のプレゼンで、郡仙台市長に操作の実演をしてもらいながら説明



質問に答える左から亀田さん、小田島さん、山内さん、大内准教授



情報福祉マネジメント学科・大内真

弓准教授のゼミ学生4人が、仙台市消防局と連携し消火器・誘導標識点検アプリ『KIKATTO（キカット）』を共同開発、2019年11月1日から運用開始となりました。運用開始前日となった10月31日には、仙台市役所で学生たちが郡和子仙台市長にプレゼンテーションを行いました。

アプリ開発を行ったのは、小田島陸さん、山内結友さん、亀田苑花さん、及川凌さんの3年生4人。主に集合住宅の消火器などの点検報告提出率の全国的低迷を打開しようと、仙台市消防局が同局勤務の本学卒業生、齋藤広和さんを通じて学科へ投げかけ、開発がスタートしました。

プログラミング班とデザイン班に分かれた学生たちは、大内准教授をはじめ学科教員の監修のもと約1年かけて、点検だけでなく報告書作成もできるアプリを完成。宮城の方言で「きちんと」を意味する「きカット」を名称に採用しました。

運用前日に行われたプレゼンには、

小田島さん、山内さん、亀田さんの3人と大内准教授が出席。郡市長の前に、アプリの特徴である容易な操作、平易な言葉や文字サイズ、色覚障がい者に対応したデザインなど注力した内容を説明しました。実際にスマホを手にとってもらい、実演してもらいました。郡市長は「すばらしいものを作っていたいただいた。（運用開始で）大いに反響があることを期待しています」と述べました。

学生たちは、今後の展望として音声機能導入や評価をもとに改善したいとしながら、「後輩たちに引き継いで、東北福祉大学として社会貢献を続けていきたい」とプレゼンを締めました。

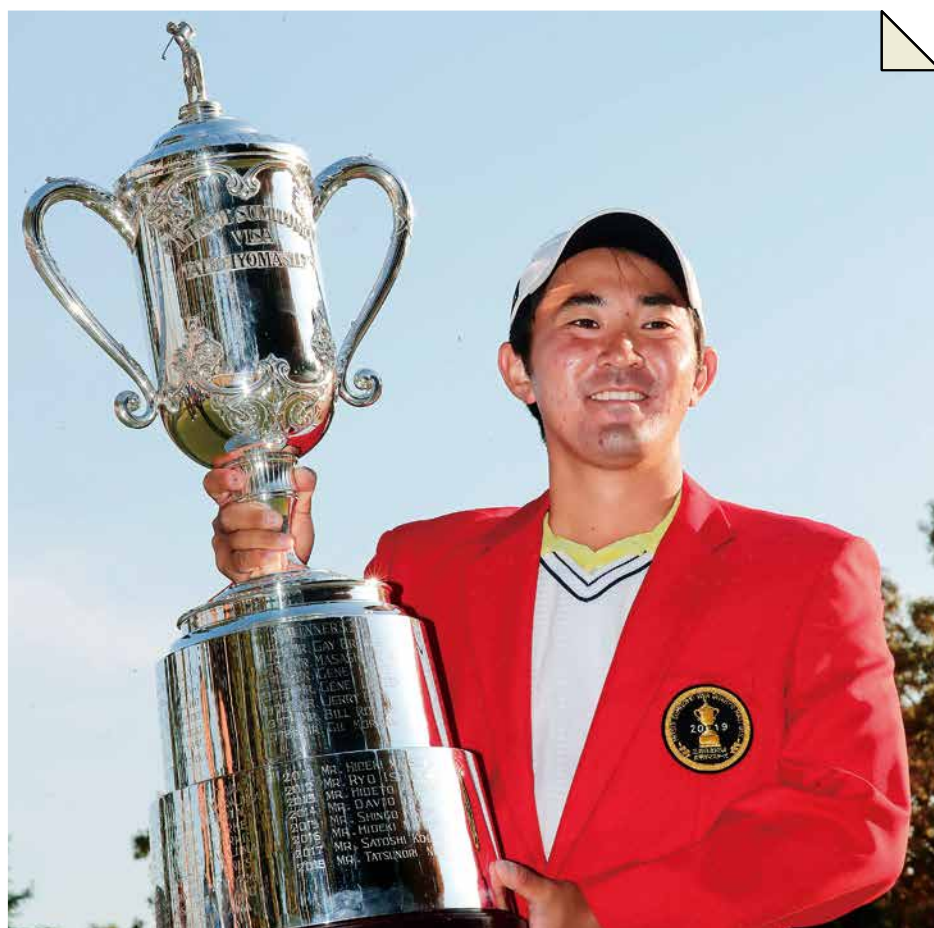
消防と大学によるアプリ開発は全国初であり、消火器だけでなく誘導標識点検を含めたアプリも全国初。仙台市とは2018年7月に「地域消防力の向上等に関する協定」を締結しており、まさに官学連携の象徴的な成果物となりました。

三井住友VISA太平洋マスターズ 卒業生松山英樹選手以来の快挙！

ゴルフ部金谷選手がアマ4人目のプロツアー優勝

ゴルフ部の金谷拓実選手(社福3年)が2019年11月14日から17日にかけて静岡・御殿場で行われた国内男子

ゴルフツアー「三井住友VISA太平洋マスターズ」に出場、通算13アンダーで初優勝を果たしました。アマ



アマ史上4人目のプロツアー優勝を飾り、金谷選手は歴代優勝者の名が刻まれたカップを笑顔で掲げる



飛距離でなく、プレーの正確さとぶれない精神力でプロと勝負した

チュア選手によるプロツアーの優勝は、2011年の同大会を制した松山英樹さん(2013年度社福卒)以来、史上4人目の快挙となりました。

最終日、同じ最終組のシヨーン・ノリス選手(南アフリカ)と通算11アンダーで並び迎えた18番で、2オンに成功。最後は7打のスライスを読んでイーグルを奪い、バーディーとしたノリス選手を1打差で振り切る劇的な勝利を収めました。

アマ優勝は1980年の倉本昌弘選手(中四国オープン)、2007年の石川遼選手(マンシングウェアオー

ブンKSBカップ)、11年の松山選手

に次ぐもの。金谷選手にとって、19年はこの大会の優勝も含め、昇り龍の1年となりました。前年のアジア・パシフィックアマ優勝資格で4月のマスターズと7月の全英オープンに初出場。日本人アマでは松山選手以来のメジャー出場となったマスターズでは予選を通過し、4日間のフェアウェイキープ率は全体1位となる85・71%を記録しました。世界アマチュアゴルフランクでも1位になり、12月の全豪オープンでは3位タイで今年の全英オープン出場権も得ました。

「三井住友VISA」を勝利しプロ転向も可能となるなど、現在海外を拠点に活躍する、大先輩の松山選手と同様の歩みが続ける金谷選手。試合後のインタビューでは「松山選手は世界トップレベル。早く同じステイジで戦えるよう頑張りたい」と語り、大学ラストイヤーとなる2020年の、さらなる飛躍に意気込んでいます。

千葉公慈新学長が就任

大谷哲夫前学長が1期4年の任期を終え、2019年12月1日に千葉公慈学長が就任しました。千葉学長は、駒澤大学仏教学部仏教学科卒、駒澤大学大学院人文科学研究科仏教学専攻博士後期課程満期退学（文学修士）。2000年4月から駒沢女子大学人文学部日本文化学科専任講師となり、助教授、准教授を経て2011年4月から教授、2019年9月に退職し、本学学長となりました。2016



年からは千葉県市原市「いちばら観光大使」も務めていました。12月27日の御用納め

で教職員と初対面し「今年は平成が終わり、令和となる大きな節目の1年でした。この大きな時代の節目にあたって、勇気ある志で新しい扉を開いてほしい」と述べました。

また、年があげた2020年1月6日には年頭のあいさつで「本年は学校創立145年を迎え、5年後には150年という大変大きな節目を迎えます。1つの原点に立ち返って、年の始めに純粋な心をもって『今、何が大事か』一人ひとり心に問いかけて、この1年を輝ける1年にしていきたいと思っています」と、新たな時代に向けたメッセージを伝えました。

なお、11月30日付で大谷前学長とともに、大竹榮副学長も退任しました。

新任教員紹介



河合 規仁教授
担当科目・リエゾンゼミⅡ（福祉実践演習）、保育実践演習、児童美術論、保育実習指導Ⅰ、Ⅱ、教育実習（幼・小）の事前事後指導、表現技術Ⅲ（美術）、保育実習Ⅰ、Ⅱ、教育実習（幼・小）（幼稚園課程）、図画工作の指導法

愛知県出身、東京藝術大学美術学部絵画科卒業、同大学院美術研究科絵画科修



岩寺 良太教授
担当科目・知的障害者の心理・生理・病理

学科卒業、秋田大学医学部卒業、秋田大

士課程修了、浦和造形研究所、光星学院八戸短期大学、山形短期大学、東北文科大学准教授を経て平成31年4月から本学教授

学医学部附属病院、市立秋田総合病院心の杜新宿クリニック、東北福祉大学せんだんホスピタル等を経て平成31年4月から本学教授



三谷 聖也教授（任）
担当科目・リエゾンゼミⅠ（基礎演習）、Ⅱ（心理基礎演習）、Ⅲ（心理基礎演習）、感情・人

格心理学、臨床心理基礎実習、研究指導Ⅰ、家族心理学特論
栃木県出身、東北大学教育学部卒業、東北大学大学院教育学研究科総合教育科学博士前期課程修了、同後期課程単位取得後退学、博士（教育学）、みやぎ県南中核病院がん診療相談センター臨床心理士、愛知教育大学教育臨床学講座講師、同准教授、同大学心理講座准教授等を経て平成31年4月から本学教授



野呂 拓生准教授（任）
担当科目・リエゾンゼミⅠ（基礎演習）、Ⅱ（専門基礎演習）、Ⅲ（専門演習Ⅰ）、マネジメメント論、経済学の基礎、地域活性化マネジメント論、経済原論（国際経済を含む）、金融論、日本経済論

青森県出身、東北大学大学院経済学研究科前期課程修了、同後期課程修了、博士（経済学）、公益財団法人東北活性化研究センター調査研究部主任研究員、青森公立大学地域みらい学科講師、同准教授等を経て平成31年4月から本学教授



山本 良講師（任）
担当科目・臨床心理実習ⅡB、臨床心理実習Ⅱ

立大学人文学部心理・教育学卒業、立大学英和女学院大学大学院人間科学研究科人間科学専攻臨床心理学領域修士課程修了、東洋英和女学院大学人間科学部任期制講師、帝京大学心理臨床センター助教を経て平成31年4月から本学講師



二渡 努講師（任）
担当科目・リエゾンゼミⅠ（基礎演習）、社会福祉援助技術演習Ⅰ、社会福祉援助技術演習Ⅱ、社会福祉援助技術演習Ⅲ、介護実習指導演習Ⅰ、Ⅱ、介護福祉論Ⅰ、Ⅱ、介護福祉論Ⅱ、形態別介護過程Ⅰ、Ⅱ、介護福祉論Ⅲ、社会福祉援助技術総論、介護実習Ⅰ、Ⅱ

山梨県出身、岩手県立大学社会福祉学部福祉経営学科卒業、同大学大学院社会福祉学研究科博士前期課程修了、日本福祉教育専門学校、厚生労働省、社会福祉振興・試験センター等を経て平成31年4月から本学講師



中林 幸子講師（任）
担当科目・リエゾンゼミⅠ（基礎演習）、Ⅱ（専門基礎演習）、情報資源組織演習、情報資源

組織論、図書館サービス概論、図書・図書館史、情報サービス演習、情報サービス演習、図書館概論、図書館実習
青森県出身、横浜国立大学教育人間科学部マルチメディア文化課程卒業、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士前期課程修了、同博士後期課程満期退学、東北文科大学短期大学部総合文化学科講師等を経て平成31年4月から本学講師



アイザックソン・ジョナサン講師（任）
担当科目・英語Ⅰ（コミュニケーションを含む）、実用英語A（保健

看護学科）、英語Ⅲ
米国出身、米国ローレンス大学歴史学卒業、ザ・ニュースクール大学言語研究科TESOL修士課程修了、北海道函館市立文芸外語スクール、北海道ハイトテクノロジー専門学校、東京国際大学グローバルティーンズデザイン研究センター等を経て平成31年4月から本学講師

学内人事

▽退職（平成31年3月31日付）

教授

大橋 謙策

同

福富 哲也

同

柴田 幸男

同

齊藤 幹雄

同

長谷川 雄一

同

小石川 秀一

同

千葉 和男

同

皆川 州正

同

滝井 泰孝

准教授（任）

新藤 透

助教（任）

小林 大介

同

藤原 愛弓

助手（任）

梅澤 裕子

同

後藤 理恵

職員（嘱）

高橋 英彦

同

関 浩隆

▽新任（平成31年4月1日付）

教授

河合 規仁

同

岩寺 良太

同

（任） 三谷 聖也

准教授（任）

野呂 拓生

講師（任）

山本 良

同

（任） 二渡 努

同

（任） 中林 幸子

同

（任）

アイザックソングジョナサン

助教（任）

望月 理生

同（任）

浮田 徳樹

同（任）

安部 葉子

同（任）

松田 健太郎

助手（任）

野川 ゆき

同（任）

佐藤 美紀

同（嘱）

高野 拓哉

同（通信教育事務部通信教育課）

佐藤 博彦

同（キャリアセンターキャリア支援課）

安重 司

同（総務部総務課

ステーションキャンパス）（嘱）

同（総務部総務課

松村 利子

同（社会貢献・地域連携センター

臨床心理相談室）（嘱）

山戸 千夏

同（入学センター入試課）（嘱）

大友 ゆき

同（教務部教務課）（嘱）

市川 愛理

同（総務部総務課ウエルコム21）（嘱）

諏佐 航平

同（管財部管財課兼総務部総務課）（嘱）

三浦 真貴

▽役職任命

副学長 寺下 明

総合福祉学部学部長 塩村 公子

社会福祉学科学科長 阿部 一彦

福祉心理学科学科長 渡部 純夫

教育学部学部長兼子ども科学部学部長（兼）

寺下 明

教育学科学科長兼子ども教育学科学科長

石原 直

兼社会教育学科学科長

直

教育学科兼子ども教育学科

兼社会教育学科主任（初等教育専攻）

熊谷 和彦

同（中等教育専攻）

朝倉 充彦

医療経営管理科学科長

船渡 忠男

リハビリテーション学科副学長

佐藤 善久

兼作業療法学専攻長

齋木しゅう子

リハビリテーション学科

理学療法学専攻長

三浦 剛

通信教育部部長

田中 治和

兼通信教育事務部長

佐藤 俊人

同

岡田 清一

総合福祉学研究科研究科長（兼）

三浦 剛

教育学研究科研究科長

岡田 清一

総合福祉学研究科

根岸 直樹

社会福祉学専攻主任

佐藤 俊人

総合福祉学研究科福祉心理学専攻

山下祐一郎

主任（兼）

田中 治和

教育学研究科主任

坪川 宏

通信制大学院総合福祉学研究科

中林 稔晴

主任（兼）

古藤 隆浩

IRセンターセンター長

阿部 靖彦

IRセンター事務局長・経営情報

分析室室長（兼）

IRセンター事務局長補佐（兼）

古藤 隆浩

IRセンター経営情報分析室

阿部 靖彦

総務部門長（兼）

阿部 靖彦

「柴田幸男先生謝恩の会」
男女卓球部卒業生140人参加

2019年3月末まで教授、女子卓球部部長として在職した柴田幸男先生への謝恩の会が5月26日、仙台市内の江陽グランドホテルで男女卓球部の卒業生によって催されました。柴田先生は1979年に体育実技の非常勤講師として本学に着任。以降40年間、男女卓球部の指導者として長年にわたる多くの学生を育ててきました。定年



退職した柴田先生を送り出す盛大な式典は最終講義と囲む会の2部構成で行われ、卒業生約140人が数々の思い出話を披露。柴田先生は「みなさんの協力のおかげで40年間できた。感激です」と述べていました。（写真）

IRセンター経営情報分析室	財務部門長(兼)	田原 洋幸
IRセンター教育情報分析室室長(兼)		白井 秀明
IRセンター教育情報分析室	室長補佐(兼)	大関 信隆
IRセンター教育情報分析室		鈴木 智彦
入学センターセンター長(兼)		渡部 純夫
教務部部長(兼)		阿部 裕二
教務部副部長		岡 正彦
同		白井 秀明
同		松本 祥子
同		渡邊 生恵
教育開発・連携支援室室長(兼)		白井 秀明
学修創造支援室室長(兼)		朝倉 充彦
福祉実習支援室室長		菅原 里江
福祉実習支援室室長補佐		石黒 亨
同		石附 敬
実学臨床教育推進室室長(兼)		阿部 一彦
実学臨床教育推進室室長補佐		佐藤 泰伸
教育・教職センターセンター長(兼)		寺下 明
教職課程支援室室長(兼)		石原 直
教職課程支援室室長補佐		菅原 敏彦

教職課程支援室主任	(保育・幼稚園担当)	和田 明人
学生生活支援センター副センター長		斉藤 仙邦
同		佐藤伊知子
ウエルネス支援室室長		大関 信隆
障がい学生支援室室長(兼)		大西 孝志
キャリアセンター副センター長		生田目学文
同		大内 真弓
キャリアセンター副センター長		兼インターンシップ室室長(兼)
同		関川 伸哉
キャリアセンター主任		工藤 健一
同		佐藤 英仁
同		野呂 拓生
国際交流センターセンター長		高橋加寿子
国際交流センター副センター長		シユミットケネス
国際交流センター主任		清水 由賀
社会貢献・地域連携センター		センター長(地域連携担当)
社会貢献・地域連携センター		澁谷 長生
社会貢献・地域連携センター		センター長(社会貢献担当)
同		庭野 道夫
社会貢献・地域連携センター		副センター長
同		金 政信

同		富澤 弥生
社会貢献・地域連携センター		事務局長
地域福祉研究室室長(社会貢献・地域連携センター)		都築 光一
生涯学習支援室室長(〃)		鍛代 敏雄
地域共創推進室室長(〃)		山口 政人
次世代育成支援室室長(〃)		下山田鮎美
予防福祉健康増進推進室室長(〃)(兼)		船渡 忠男
認知症予防・対策研究室室長(〃)		伊藤 恒敏
防災士研修室室長(〃)(兼)		船渡 忠男
防災士研修室室長補佐(〃)		齋藤 昌宏
地域共創推進室室長補佐(〃)		金 義信
感性福祉研究所副所長(研究担当)		松江 克彦
感性福祉研究所副所長(研究担当)		松江 克彦
感性福祉研究所副所長(研究担当)		松江 克彦
兼事務局長		庭野 道夫
▽新任(令和元年6月1日付)		職員(通信教育部)(嘱)
▽退任(令和元年11月30日付)		梶原 怜子
学 長		大谷 哲夫

副学長 大竹 榮
 ▽新任(令和元年12月1日付)
 学 長 千葉 公慈



樋渡学科長が逝去



リハビリテーション学科学科長として在職中だった樋渡正夫

教授が2019年6月25日に逝去しました。樋渡教授は東京都出身で、国際医療福祉大学大学院教授、同大学病院副院長、仙台市立病院副院長などを経て、2016年4月から本学教授に就任。なお、葬儀は近親者のみで営まれました。

2019年の主なお悔やみ

細井 計さん

(元教授、1月2日逝去)

三浦 鐵也さん

(元特任教授、3月8日逝去)

青砥みゆきさん

(東北福祉看護学校専任教員、8月16日逝去)

第2回日本医療研究開発大賞 小川特任教授に内閣総理大臣賞

感性福祉研究所・小川誠二特任教授が、2018年12月に第2回日本医療研究開発大賞の内閣総理大臣賞を受賞しました。同27日に東京・千代田区の首相官邸で行われた表彰式に出席し、安倍晋三首相から表彰状を授与されました。



首相官邸での表彰式にて。左から成烈完特任准教授、安倍首相、小川特任教授

「極めて顕著な功績があったと認められる事例」に授与される内閣総理大臣賞はこの表彰における最も大きな賞で、受賞事由は「機能的MRIの開発」。MRI画像信号が血液中の脱酸素ヘモグロビンの量によって変わることを発見、BOLDと名付けた効果

を利用した機能的MRI (fMRI) の実用化により、脳の機能を非侵襲的に画像化することを可能にしました。

fMRIは約10年前からアルツハイマー病や自閉症の研究など、脳疾患診断にも応用されるようになりました。小川特任教授は「神経・認知科学分野のみならず、現在では、個人の能力・適性、加齢、種々の精神疾患の程度を、対応する脳ネットワークが示す変化として捉えることで、ヒトの特性を脳表現で理解しようとしています。医療分野での応用は多方面に及び、広範囲で研究者が参画し、開発・実用への開花がますます期待されます」。今後はAI、医療、教育などの分野へ応用が進む見込みもあり、さらなる脳機能活動の解明が期待されます。

研究開発プラットフォーム 米糠エキスパ配合化粧品発売



国内農業
振興への貢
献をめざす

「米及び油糧米が創る新産業に係る研究開発プラットフォーム」が2019年1月に設立されました。

平泉助教共同研究 Nature 関連誌掲載



福祉心理
学科・平泉
拓助教が東
北大学
院教育学研

究科・若島孔文准教授らと行った共同研究「東日本大震災における行政職員の心理的ストレス反応の軌跡」の成果に関する論文が、2019年4月16日にNature関連誌であるPalgrave Communicationsに掲載されました。

研究では、東日本大震災で被害を受けた石巻市職員を対象とした4年間の健康調査を分析。被災行政職員のスト

レス反応の軌跡を明らかにし、職場でのコミュニケーションの量がストレス反応の低減に最も影響を与える、などとの成果を報告しています。

宮城の高校生は睡眠不足 水野准教授が成果報告会

教育学科・水野康准教授と感性福祉研究所・水野一枝特任研究員が2019年11月24日、仙台駅東口キャンパスで学内公募型研究助成等による成果報告会を行いました。

水野准教授らは2011年以降、宮城県内の高校1、2年生や母子を対象に調査、睡眠測定などを行い、運動部や文化部に所属する高校生及びその母親の深刻な睡眠不足を明らかにしました。報告会には高校教員の方などが参加。睡眠不足の顕著な事例を示し、身体に及ぼす影響やリスクを説明、快適な眠りを得る方法や効果などを説きました。



高校生保護者らに成果を発表する水野准教授

赤塚教授にカンボジア社会福祉省から感謝状

2018年12月18日から2019年4月1日まで、カンボジア社会福祉省 (MoSVY: Ministry of Social Affairs Veteran and Youth Rehabilitation) 高齢者福祉局での任務に従事してきた、社会福祉学科の赤塚俊治教授が3月29日、ヴァン・ソー

ス大臣から「感謝状」を授与されました。授賞理由は「カンボジアの高齢者福祉推進に多大なる貢献」。高齢者福祉分野推進のアドバイザーとして、任務についた赤塚教授は、同省内初の日本人スタッフでした。

任務内容は、日本の老人福祉法にあたる「カンボジア王国高齢者福祉法」や、「国立高齢者ケアセンター運営規



感謝状を手渡された赤塚教授（右）はカンボジア高齢者福祉局シン局長と握手

定法」、「カンボジア王国介護福祉士認定法」（法律名はいずれも仮称）の草案作成および高齢者ケアセンターの5カ年計画案、高齢者福祉局の組織改編案作成が中心。

配属先の高齢者福祉局は名前こそ専門ではありましたが、「社会福祉の概念」や「福祉の意味」を理解するスタッフが乏しいのが実態で、ゼロベースからの任務の遂行だったといえます。赤塚教授は「国家再建の途上にあるカンボジアの社会福祉分野の推進に少しでも寄与できる幸せを感じながらできました」と振り返りました。

シッティングバレー女子 イタリア代表が学生と試合

イタリアのシッティングバレーボール女子代表が2019年5月16日、交流事業の一環として国見キャンパス福聚殿で競技指導と試合を行いました。

障がい者スポーツの指導者をめざす実技科目「ユニバーサルスポーツ」の受講学生と女子バレーボール部の学生たちが参加。技術指導の後、学生とイタリア代表選手の混成4チームによるトーナメント試合が行われました。試



激闘となったイタリア代表対女子バレーボール部

合が進むにつれて、チームごとに掛け声やハイタッチを交わすなど、言葉の壁を越えすっかり打ち解けたようす。最後はイタリア代表対女子バレーボール部の、1セット勝負の「エキシビションマッチ」が行われ、熱戦の末にイタリア代表が15-13で逆転勝利を収めました。

シッティングバレーは肢体不自由者による競技で、イタリア代表は6月のヨーロッパ予選を2位で通過、今年の東京パラリンピック出場を見事に決めました。仙台市はオリンピック、パラリンピックイタリア代表の事前合宿受け入れが決まっており、本学も要請に応じて協力する方向です。

北京体育大学来学 バドミントン交流

2019年11月15日、北京体育大学の学生ら約30人が来学、バドミントン部とのスポーツ交流などを行いました。一行は、外務省が推進する「日中植林・植樹国際連帯事業」の一環での訪問で、相互理解の促進が目的の1つとなっています。この日は、スポーツ交流のみならず、座禅体験や留学生支援を行う国際交流サークルCOCOSAに所属する在学生により、キャンパスツアーも行われました。

ナショナルクラスの選手が多く在籍する北京体育大学。「メインイベント」のバドミントン部とのスポーツ交流では、日中の選手でペアを組んで試合を行いました。



ペアで対戦し、技術を競った両大学の学生たち

共同出版、研究マッチングセミナー、教育共同アジアプログラム等 ラウレア応用科学大学とのプロジェクトが續々進行中

本学と国際交流協定を結ぶフィンランド・ラウレア応用科学大学との4冊目の共同出版「New ways of promoting cognitive function and mental well-being (認知症及びうつ病予防への地域包括的取組)」が、ラウレア出版会より2019年に上梓されました。この出版を機に5月20日〜23日までの4日間、同大学から9名の教職員が来学し、研究マッチングセミナーを開催。本学からは共同出版に投稿した9名を中心に多くの教員が参加しました。

セミナー初日は共同出版に基づく両大学の研究者が研究発表。2日目は、



多くの教員が参加したマッチングセミナー

本学研究者とラウレア側研究者の更なるマッチングをはかるため、「高齢者福祉」「メンタルヘルス、臨床美術」「母子・児童福祉、ネウボラ」のテーマ毎に小規模ワークショップを2回開き、密接な議論を行いました。3日目は、午前中に本学関連法人のフィンランド型特養「せんだんの館」のスタディツアーを実施、「スタディランチ」として利用者様と同じ昼食を体験しました。午後は前日と同様のワークショップを2回実施。全体の延べ参加者は約120名となりました。

今後は「介護現場における多文化共生」「日本とフィンランドの事例を通して」「日本とフィンランドの子育て支援について」等の共同研究に可能性が得られています。5月末にはラウレアからヨハンナ・ホルミカリ上級講師が来日、臨床美術の研究を大城泰造准教授と共同で行うだけでなく、他の分野の共同研究者たちとの調整や取りまとめを行います。

この関係を基に今後、両大学ともに外部補助金申請などを積極的に行い、国際共同研究を展開していくことが課題となります。

また、4月20日からはもう1つのプロジェクト「教育共同アジアプログラム」超高齢社会に対応した高齢者サービスの在り方 (Finnish and Japanese elderly care services)」の3回目の交流で、ラウレア側から学生6名、教員3名が来日予定。その後、中心メンバーのサリ・ヘイッキネン上級講師が本学で2カ月間、研究および教育活動に従事する予定です。

三木教授主宰劇団 フィンランド公演

情報福祉マネジメント学科・三木弘和教授が主宰する劇団I,Mが2019年8月21日から26日にかけて、協定校であるラウレア応用科学大学や本学の後援のもとに『BENBANA-The flowering spirit』公演などをフィンランドで行いました。本学留学生も現地を手伝いをするなどした舞台公演は、成功裏に終わりました。

当初は、日本とフィンランドの国交100周年記念事業としてエミール・セーデル・クロイツ美術館で開催された『Japonism Today 展』のみの招聘。しかし現地関係者の尽力により、ポリ市文化ユニットから「PROMENADI HALL (22日)」での公演オファーを

もらい、さらにはラウレア応用科学大学の支援により、ヴァンター市の「Teatteri Vantaa (26日)」での上演も実現しました。

三木教授は「フィンランドの人々の大らかさや寛容さ、見知らぬ他者に対する心配りや文化芸術に対する理解の深さ、そして『良い事だから、やろうよ!』という単純明快な行動力や決断力、等々。そんな人々の大いなる豊かさ、フィンランドという国の幸福度や教育水準を世界トップに押し上げる原動力になっているのだろうと感じました」と振り返りました。



公演の合間を縫ってラウレア応用科学大学を訪問した三木教授（後列左から3人目）ら

実習直前の全1年生が決意新たに 保健看護学科宣誓式をけやきホールで初開催

2019年10月30日、国見キャンパス音楽堂けやきホールで「令和元年度保健看護学科宣誓式」が行われ、1年生90人が出席しました。宣誓式は、1年生が実習で初めて患者の方を担当する前に、看護学生として学ぶ決意を固め、真摯に学んでいくことを宣誓するための機会としています。今年度は初めてけやきホールを会場とし、燈明を用いた宣誓式を行いました。

保健看護学科・杉山敏子学科長は式辞で「人は生まれるときも死んでいくときも苦しみや痛みが伴っています。人の死には、悲しみも伴う。看護は、それらをケアすること。ときに疲れて逃げ出したくなるときもある。それに負けないために、自分の心に覚悟が必



初めて行われた「燈明」で火を授かる学生たち

要になる。きょうはそのための宣誓式です」と現実を踏まえた言葉を学生たちに伝えました。

続いて燈明が行われ、1年生全員がろうそくの火を厳かな雰囲気の中で灯しました。学生を代表し、庄子彩水さんが「大変なことがあっても、決して逃げない強さや前向きな姿勢で対象者に接します。最善の看護とは何かを問いつけ、学び続けることを忘れません」と誓いました。

3学科で合同授業 多職種連携を学ぶ

2019年11月20日、保健看護学科とリハビリテーション学科（理学療法専攻・作業療法専攻）の2年生、福祉心理学科で公認心理師をめざす2年生を対象に、「多職種連携」をテーマとした合同授業が行われました。普段は異なるキャンパスで異なる専門領域（看護学、理学療法、作業療法、心理学）を学んでいる学生同士がグループを組み、模擬事例に対してどのような支援を行うかをディスカッションしました。

初対面の学生も多く、最初は緊張し

た面持ちでしたが、日頃学んでいる自分たちの視点とは別の視点に新鮮さを知識・視野の広がりを感じた様子。お互いの専門領域の強みを出し合いながら、支援の方法などを熱心に話し合いました。



グループワークで、学科を横断する合同授業で、学生たちが議論を交わす

最後に、各グループで知恵を絞った内容を発表。発表後には活発な質疑応答が交わされ、所定時間に収まりきらないほどでした。学生たちからは「実際に将来どのように情報共有やチームワークをやっていくのか想像することができた」、「看護や医学療法、作業療法の方々が2年生とは思えない専門性の高さで事例検討に参加していて、感動しました。私も、心理としての専門性をしっかりと持ち、勉強したい」と感想が寄せられました。

TFU教育フォーラム2019 幼保コース版に500人参加

「TFU教育フォーラム2019（幼保コース版）」が12月14日、音楽堂



学生主導で議論が交わされる

学生たちが実践を通じて得た体験を語りました。

約5時間にわたったフォーラムの閉会式で、東京家政大学子ども学部の大澤力学部長は「真実の込められた、心からの発表だった」と激励しました。

けやきホールで開催されました。テーマは「主体的・対話的で深い学びを目指す子どもをどう支援するか」。保育士・幼稚園課程の1〜4年生と県内外からの高校生ら約500人が参加しました。3部構成で行われ、1部はプロジェクトの活動報告。4年生になる前に行われるオーブンスペース・テクノロジー（OST）で、学生がテーマから内容まで自ら考え、学ぶ様子が紹介されました。

2部はシンポジウムⅠ「実践にみる『主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）』」をテーマに3年生3人が、保育所実習での体験を元に話題を提供。シンポジウムⅡのテーマは「『主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）』の創出と構造」で、

「教育懇談会」を10会場で開催、保護者約1,100人が参加



仙台会場で説明を行うキャリアセンター・梶原センター長

令和となって初の「東北福祉大学教育懇談会」が、2019年6月1日から7月14日にかけて、東北各地を中心に行われました。国見キャンパスでの仙台会場を皮切りに今年度は10会場で開催。6月23日には初めてとなる気仙沼でも行い、仙台へのアクセスが決して良くない南三陸町、陸前高田市、大船渡市などからも保護者が集いました。教育懇談会は、保護者の方の関心が高い就職面や学業面の情報提供と、家庭と大学が円滑な連携を図り、学生の成長を後押しすることが目的。それぞれを支援するキャリアセンター、教務部の教職員が大学の現状、就活状況説明などに加え、希望者への個別面談を行います。

今年度は基調講演を取り入れ、各会場ごとに担当した教員によりテーマは

2019年度「教育懇談会」参加人数

会場	参加総数	参加組数	学年別（組）				個別面談（組）		
			1年	2年	3年	4年	キャリア	教務	学生生活
仙台	488	377	155	106	73	43	53	57	12
福島	63	48	18	12	9	9	13	8	—
八戸	40	32	6	12	12	2	6	15	—
青森	47	35	10	13	5	7	6	16	—
気仙沼	51	36	8	10	11	7	6	9	—
山形	104	82	34	23	15	10	23	16	—
盛岡	90	74	26	16	16	16	18	20	—
秋田	83	55	17	11	22	5	17	16	—
宇都宮	30	20	6	5	5	4	7	4	—
郡山	75	54	21	13	12	8	6	15	—
合計	1,071	813	301	221	180	111	155	176	12

異なりましたが、メンタルヘルスや障がい者との共生、学生の情報倫理に関する話がなされ、現在の学生に関わる内容に保護者の方々も熱心に聞き入っていました。

仙台市以外での開催は10年連続で、1～4年生までの全保護者を対象にした開催は2年連続となった今年度の教育懇談会。保護者の方々からは「福祉大で学んだことと職業にどんな関連があるかなど考えさせられ、ありがたかった」「充実した学生生活を送っているようで安心した」「貴重な話が聞けて、参加してよかった。来年もまた来たい」「目標に向かう子どもを応援したい」との声が寄せられました。

ベストティーチャーに 社福・佐藤伊知子准教授



表彰を受ける佐藤准教授（右）

知子准教授（スポーツ）佐藤伊知子（スポーツ）
I「バレーボール」、
《専門教育》
三浦和美教授（社会科学概論）、鎌田克信講師

学内表彰の「2018年度ベストティーチャー」に社会福祉学科の佐藤伊知子准教授が選出、2019年7月3日の教授会で表彰状が贈られました。表彰は、授業評価アンケートに基づき2015年度から行われ、18年度は佐藤准教授が担当する「スポーツI（バレーボール）」が、授業の質項目で高い評価を得ました。佐藤准教授は「コーチング研修講座で学んだ『伝える、聞き出す』などの経験が役立っている。今後も勉強を継続して行く」と話しました。その他の表彰は以下の通り。

【グッドティーチャー】

※（ ）内は対象授業

〈総合基礎教育〉平泉拓助教（心理学の基礎）、〈外国語〉シュミットケネス教授（英語Ⅱ）、〈スポーツ〉佐藤伊

（養護概説）
【兼任グッドティーチャー】
菅原弘一（社会科学概論）、大野榮夫（社会科の指導法）

若手女性職員考案 学生手帳が完成！



使いやすくなった手帳を手に笑顔

履修する科目を前期・後期とも書き込めたり、メモ書き用にシン目入りのページがあったり、また自身でアレンジできるシンプルなデザインで重さも考慮。学生へのヒアリングも行いながら、アイディアがぎっしりと詰まった手帳が完成しました。

毎年4月に通学生全員に配付している手帳を、2019年度から刷新しました。前年度から若手職員による「新入生プロジェクト」が立ち上げられ、このうち教務課・佐藤あゆみさんら女性職員たちが学生に配付される手帳に着目。従来はジャケットの内ポケットに入るお堅いイメージの黒手帳で「これでは学生たちが使用しない」との考えから、マンスリータイプの手帳へと変えました。

「カフェ」を通じて社会人との接点を気軽に キャリアアカフェクラブが活動スタート

2019年9月、大学指定団体に新たな学生サークル「キャリアアカフェクラブ（略称CCC）」が発足しました。部員は現在40人で、主な活動内容はキャリアセンタースタッフと連携し、学生と社会人が身近に会話できる「キャリアカフェ」の運営を担います。このカフェ等の企画やSNSを通じて在学生へのイベント告知のみならず、TFUパートナーズ（※）会員である事業所を取材し、大学ホームページへの掲載も行います。



精力的な活動を続けるキャリアアカフェクラブの学生

活動を通じて社会人と接点を持ち、さまざまな話を聞く中で、現在の学びや進路選択に活かしていくことも目的にしています。

場所はなっています。学生にとっては「なりた先輩像を見つけられる」「社会人に対する素朴な疑問を聞ける」「自分の将来について現実的に考える、現場のリアルな声が聞ける」等のメリットがあります。

また事業所にとっても「学生の考えや疑問点といった実情を知ることができ、事業所の知りたいことを聞ける」「就職に対する学生の声を聞き、採用活動へ活かされる」等、メリットが生み出される場所づくりに向けて、インターンシップ室とCCCが協働していきます。

※TFUパートナーズとは、大学と事業所（企業・各種法人、行政機関、各種団体など）の連携により、学生と事業所の相互理解を深め、地元根付いた良い人材を大学と共に育成していく制度です。主に単位制インターンシップの受入など協力いただく事業所に会員登録してもらい、TFUパートナーズ事務局からの情報提供のほか、「キャリアカフェ」への参加、そして本学の社会人向けプログラムへの参加や施設の優遇利用などで、連携強化を図っています。

学生考案メニューを 181ホールで提供

単位化されている「キャリアデザインインターンシップ」の企業業界研究型インターンシップ参加学生が、昨年度に続き学食メニューを考案、2019年10月7日から11月1日の4週に渡って国見キャンパス181ホールの学食で提供されました。



メニュー考案でミーティングを重ねたインターン生たち

学生たちは同所の学食を運営する（株）エム・ティー・フードで7月から実習を行い、栄養に関する基礎知識を学んだ上で試作・改良を重ね、4品のメニューを考案。「餃子丼」「チーズタッカルビ丼」「ロコモコ丼Wソース」「魯肉飯（ルーローハン）」が週替りで提供され、売り切れのメニューも出るなど、好評を博しました。

令和最初の国見祭 「IMPACT」

令和になって最初の国見祭が2019年10月19日、20日に国見キャンパスで開催されました。テーマは「IMPACT」。初日はあいにくの雨でしたが2日目には上がり、高校生や学生ら多数が訪れました。



今年も多くの方に来場いただいた国見祭

初日の野外では、みちのくYOSAKOIからスター誕生、音楽フェスティバルなど、福聚殿（体育館）ではMS・MRコンテストなどが行われ、けやきホールでは吹奏楽部と混声合唱団のジョイントコンサートが開かれました。2日目も、のど自慢や腕相撲大会など様々なイベントを開催。けやきホールでは5人組ロックバンド「キュウソネコカミ」がライブを行いました。教室企画は22、学生イベントの模範店は23を数え、来場者にインパクトを与え、活気ある学祭となりました。

学生主体の採択事業、高大連携校も参加 自然体験学習「網地島アドベンチャー」

2019年度の公益財団法人日本離島センター「離島人材育成基金助成事業」に採択された東北福祉大学学生団体オリブクラブは、2018年4月に本学と協定を結んだNPO法人ジョイフル網地島の本拠である石巻市網地島を舞台に、網地島アドベンチャー「遊学かがやき隊」として、阿部桃子さん（教育3年）が実行委員長となり「プロジェクト実践活動」受講の1、2年生と協力、9月7、8日に事業を実施しました。



オリブ農園に看板を設置し、参加者全員で記念撮影

内容は自然体験学習「磯遊び・創作活動・野外炊飯等」で、本学学生19人、教職員5人、仙台市と石巻市内の小中学生6人、高校生2人（高大連携の東北

高校）の計32人が参加しました。主な

目的は①本学の建学の精神「行学一如」にならない、遊んで学べる島をイメージした「遊学一如」を掲げ、網地島の魅力を発信し、島の輝き（活性化）を取り戻す活動を行う。②豊かな自然の恵みを受けながら「厳しい環境の中でたくましく生きる力を育む」ことの2つ。

事業はまず、立脇地区でチュニジア産オリブの苗木植樹から開始。隣接地には前年5月に植えられた木が約2倍の1.5に育ち、小学生、高校生、大学生が共にオリブの木にメジャーをあてて背丈を測定。土の酸性度のチェックなど観察記録も行いました。

その後は浜での磯遊びや、堤防の上での釣りを体験。収獲した魚介類は、夜のバーベキューで提供されました。

宿泊場所は旧網長中学校の「島の楽校」。夕食前に食事班とオリブ農園の看板づくり班に分かれて、準備に入りました。看板はカラフルなペンキに彩られ、文字と絵が美しく描かれ完成。翌日に設置を行いました。まとめの会では、小学生が「みんなと知り合えてよかった」、高校生は「交流ができてうれしかった」と充実したようすで語りました。

七ヶ宿、朴木山で 恒例の米づくり

本学の理念の1つを実現する「地域共創教育」では、土地に根ざした「協業」によって培われてきた先人の経験を追体験し、自然を活用した食と農という、人間の基本的な営みを学びます。2019年も5月と9月に、七ヶ宿町では「地域共創実学教育Ⅲ」「プロジェクト実践活動Ⅰb」「リエゾンゼミ（関川伸哉教授ゼミ）」の履修学生が、朴木山キャンパスでは齋藤昌宏准教授のゼミ生が田植えと稲刈りを行いました。



田植え、稲刈り
では田植え、稲刈り
に田植え機、稲刈り
機を用いた

七ヶ宿町の横川学習田では、今年度から田植え、稲刈りとも機械を用いた「実技」も実施。現代の農業に即した作業から、た作業から、いずれば流通までを考える学習内容にする方向づけがなされていきました。

第11回くにみ街道まつり 約5,000人が参加

地方創生事業「第11回くにみ街道まつり」が2019年10月27日、ステ

ションキャンパスで開催され、地域住民や学生・教職員ら約5,000人が訪れました。



学生消防団と仙台市消防局による消火活動の実演

魚すくい、錦鯉の販売もあり、老若男女を問わず楽しんできました。

イベントはリハビリテーション学科のマッサージ（理学療法専攻）と身体機能チェック（作業療法専攻）、学生サークル匠民によるものづくり、人形劇ベベの劇などが展開されました。駅前広場では、仙台市消防局と連携した本学学生消防団による放水ポンプや消火器操作などの訓練が紹介され、学生サークル「ONCE」のダンスなどが披露されました。石巻市の海産物、蔵王町の果物、朴木山キャンパスと七ヶ宿町学習田産の米も割安で販売され、食事コーナーでは留学生による水餃子、女川町産のサンマとカキの炭火焼きと各種屋台が並びました。地域参加企画では国見小の小萩吹奏楽団による演奏のほか、射的コーナー、金

仙台市集団災害救助訓練 救命士課程学生30人参加

仙台市では、集団災害における救急救助活動計画に基づく訓練を仙台市消防局で実施しています。本学はこれまでも同様の訓練に参加してきましたが、12月3日に青葉区の仙台市交通局実況営業所で行われた今年は、救急救命士課程の学生30人が参加しました。交差点での乗用車、歩行者、路線バスの多重事故の想定のもと傷病者役として、また事故発生による通報から救出、応急措置から搬送まで一連の訓練に加わりました。本課程を卒業、市消防局に配属された消防学校訓練生も参加。救急救命士をめざす学生にとって、身近な先輩を間近に実践的な現場を体験できたことは、今後に大きく生きるものとなりました。



学生たちは真剣な眼差しで訓練に参加した

防災未来フォーラム2019 Team Bousaisiが参加

仙台防災未来フォーラムが2019年3月10日、仙台国際センターで開催され、大学指定団体のTeam Bousaisiがブース展示、プレゼンテーションを行いました。また、本学主催のセッション「障がいと地域防災」情報提供・支援のあり方とは」も実施されました。



3月のフォーラムに参加し、ブース展示した Team Bousaisi の学生たち

東日本大震災を教訓に、2013年に設立されたTeam Bousaisi。「地域と連携した学生防災士の活動」として小林渥季さん（福祉行政4年）らがプレゼンを行いました。防災士や防災士養成講座の説明を行ったブース展示では、防災士資格を取得している一般学生も参加。総勢16人で来場者に対応しました。

社会学部・阿部一彦

教授、三浦剛教授が登壇した本学主催のセッションには104人の方が来場。また、河北新報社と311次世代塾運営協議会による「次世代が担う震災伝承トークイベント」には、河邊千尋さん（教育3年）が参加し、それぞれが震災の教訓と未来に向けたメッセージを送りました。

同フォーラムは11月10日にも行われ、Team Bousaisiの学生たちが参加しました。

平成30年度卒業証書授与式 平成31年度入学式を挙行

平成30年度「学位記・卒業証書授与式」が3月20日、国見キャンパス福聚殿で執り行われました。学位記は大学院の修了生が博士課程1人、修士課程が通学制13人、通信制11人。卒業証書は社会福祉学科411人、福祉行政107人、福祉心理135人、社会教育1人、産業福祉マネジメント93人、情報福祉マネジメント86人、教育学科初等教育専攻214人、同中等教育専攻37人、子ども教育1人、保健看護71人、リハビリテーション学科作業療法専攻34人、同理学療法専攻47人、医療経営管理80人、通信教育部の256人で、全体では1,598人が対象となりました。



式を終え、後輩から花束を受け取る卒業生たち

また、平成31年度入学式は4月3日に同所で行われ、大学院は通学制の総合福祉学研究科の博士、修士課程、教育学研究科、通信制の修士課程合わせ38人。総合福祉学部は編入生を含め、社会福祉、福祉行政、福祉心理学で687人、総合マネジメント学部は231人、教育学部教育学科は270人、健康科学部は保健看護学科、リハビリテーション学科、医療経営管理学科合わせて260人で、合計1,486人が新たな仲間入りをしました。

卒業生と在学生在が歌声合わせ圧巻のステージ 混声合唱団創団50周年記念「第48回定期演奏会」

4年制大学になって7年後の1969年に創設された混声合唱団の創団50周年記念「第48回定期演奏会」が2019年12月22日、国見キャンパス音楽堂けやきホールで開催されました。市民や学生、卒業生、教職員ら合わせて約600人が来場しました。記念の演奏会は4部構成で、おなじみの団歌「飛翔」で幕を開けました。1部は第72回全日本合唱コンクール参



卒業生も登壇し、約600人の聴衆にさまざまな曲を壮大に披露した

加曲の課題曲「雪」(整(いし))のうへ「から」自由曲「混声合唱とピアノのための『やわらかいいのち三章』から2、3」を、客演指揮・石川浩氏、同伴奏・伊藤真奈美氏で届けました。

2部では、1年以上前からこの日のために依頼していた「混声合唱組曲きみの胸の丘では」(作詞・原田勇男、作曲・森山至貴)が初公開されました。ステージには4期生から49期生までの卒業生80人と現役団員を含め100人超が並び、圧巻の演出でした。1. 賛歌、2. きみが地上に生まれる前の、3. 集光器、4. きみの胸の丘では、5. そのときは、の5編の詩を壮大に歌い上げました。

3部は「ありがとう」をテーマに、女子団員が高校生の制服姿で登場すれば、男子が黒の衣装で工夫を凝らすなど、4曲をしつとりと聴かせました。

4部は、混声合唱とピアノのための組曲「みやこわすれ」を学生指揮・大内美和子さん(社福3年)が、爽やかでかつ哀愁感たっぷりなハーモニーを引き出しました。

会場は惜しみない拍手に包まれ、アンコール曲で応えました。代表して高

階慎団長(社福3年)が「本日はありがとうございました」と感謝の言葉を述べました。温かな雰囲気満載あふ

吹奏楽部「第42回定期演奏会」約900人来場 大船渡特別演奏会は300人から大反響

吹奏楽部の第42回定期演奏会が2019年12月15日、仙台市内の東京エレクトロンホール宮城で開催されました。市民や高校生、学生、教職員ら約900人が訪れました。

3部構成の1部では、「夢中夢の行進曲」や「ユーフォニアムの為の狂詩曲」を吹奏学部音楽監督・松崎泰賢氏が指揮するなどしました。

2部はゲスト指揮者に宮城教育大学の日比野裕幸教授を招いて、「シバの



心のこもったステージとなった大船渡公演

れた定期演奏会。創団から半世紀を経た伝統の重みと、団員の絆の強さが伝わりました。

女王ベルキス」を披露しました。3部では「ブリュッセル・レクイエム」を松崎氏が再び登場して、指揮しました。会場から拍手が鳴り止まず、アンコール3曲で応え、聴取者を喜ばせました。今年度は吹奏楽コンクール東北大会で金賞を受賞しましたが、残念ながら全大会出場を逃しました。それだけに1年の集大成にしたいと部員が精いっぱい演奏しました。

また、12月22日には東日本大震災の復興を願い、被災地の岩手県大船渡市民文化会館リアスホールで特別演奏会を開催。客席などが三陸の海や近隣の碓氷海岸のイメージで設計された特徴ある会場に、市民ら約300人が訪れ演奏を堪能しました。

当日アンケートの回収率は、90%を超えるかつてない反響となり「最高でした。勇気と希望をいただきました」「前に向かって歩んでいこうという気持ちにさせてくれました」「来年も是非開催してほしいです!!」などと熱いメッセージをいただきました。

「ケガのリスク減った」「レベルアップに」

野球場、陸上競技場を全面改修

仙台六大学野球リーグ戦などが開催

される国見ヶ丘第2キャンパスの東北福祉大学野球場が2019年4月、マウンドとベースを除き全面人工芝にリニューアルしました。

球場は1982年4月に完成。近年は水はけの悪さに加え、東日本大震災の影響でグラウンドに傾きが生じていました。また、設置当初より近隣に住宅が大幅に増え、強風時の砂ぼこり

の対策も必要となっていました。

全国大会の会場となる明治神宮野球場と同じ、衝撃吸収力が高く、けがの防止に役立つロングパイル人工芝を採用。広さは両翼93メートル、中堅123メートルと従来と変更はありませんが、ベンチやフェンス、バックネットを新調。ベンチ裏に新たにロッカー室やトイレが作られ、スタンドにも塗装がなされました。



新装された野球場（上）と陸上競技場

また、これに先立ち2018年12月には、球場隣りの陸上競技場も改修工事が完了。これまでは土のグラウンドでしたが、サッカーコート部分の人工芝に加え、3レーンのタータントラックが設置されました。利用の多い体育会学生や指導者たちからは、「体への負担が減り、故障のリスクも減った」「レベルアップにつながる」と競技力向上に向けた声が上がっていました。

令和元年度体育会入会式 佐藤あり紗さんがエール

新入生を迎える令和元年度東北福祉大学体育会入会式が2019年5月29日、国見キャンパス音楽堂けやきホールで行われました。

第1部には卒業生で、2016年のリオデジャネイロ五輪に出場した、バレーボール女子元日本代表の佐藤あり紗さんが登壇。恩師である女子バレーボール部長の佐藤伊知子准教授、

体育会常任幹事会幹事長の尾形昇平幹事長（社福4年）を交え、トークショーが行われました。

佐藤さんは「社会人になって全日本に入ったり、自チームで主将を任せられたりと、周りの方々が私を頑張らせようと、導いてくれたバレー人生。（競技で大事なことは）感謝です」と後輩たちの胸に響くメッセージで締められました。

第2部では各部の新入生213人が紹介されました。1年生を代表して、テニス部男子の西澤風哉さん（情マネ）が「日々努力と勉強を怠らず、体育会の発展に寄与していきます」と誓いの言葉を述べ、総勢771人となった全会員で校歌を歌い上げました。



トークショーで体育会会員に多くのメッセージを送った佐藤さん

津森投手がソフトバンク3位で入団

東京都内で2019年10月17日に行われたプロ野球（NPB）ドラフト会議で、硬式野球部の津森有紀投手（医療経営4年）が福岡ソフトバンクホークスから3位指名を受けました。

21日には、球団から福山龍太郎アマスカウトチーフと、本学OBである作山和英アマスカウトチーフ補佐が指名あいさつで国見キャンパスを訪問。福山チーフは「セットアップから将



津森投手（中央）は福山アマスカウトチーフ（左）と作山アマスカウトチーフ補佐に激励され笑顔

來的にはクローザーとして、彼の投げっぷりに期待しています。2018年の日米野球を見て、その投げっぷりや打者に向かっていく強さなど、投手に必要なものを感じ評価していました」と話しました。

球団の帽子を、先輩の作山チーフ補佐にかぶせてもらった津森投手は「すばらしい球団でプレーできることを、楽しみに感じています。自分の評価されているところを思い切って出していきたい。信頼される投手になれるように」と意気込みを語りました。

11月26日には仮契約を済ませ、本学49人目のプロ野球選手（NPB、MLB）の誕生となりました。

大学野球選手権2連覇逃す 神宮大会は激闘の末敗れる

2019年6月10日に開幕した第68回全日本大学野球選手権大会に34度目の出場となった硬式野球部は、準々決勝で佛教大学にサヨナラ負けし、2連覇はなりませんでした。

初戦の2回戦は楠本のソロ本塁打での1点を守り、創価大学に1-0で辛



明治神宮大会東海大戦の7回表一死二塁、代打富木は左翼へ同点2ランを放つ

勝ち、2年連続の8強入り。続く佛教大学戦も、中盤まで互いに無得点と均衡した展開となりました。六回に4番清水の3ランで先制するも、七回から救援したエース津森が乱調。七回、八回と失点し同点に追いつかれると、九回はミスが絡み一死二・三塁とされ、最後は相手4番にスクイズを決められ3-4でサヨナラ負けとなりました。

雪辱を胸に臨んだ、4年ぶり26度目の出場第50回明治神宮野球大会では、11月16日に1回戦で東海大学と対戦。6-8とした七回に、代打富木が同点2ランを放つなどしましたが、九回裏にまさかの4失策が絡み8-9でサヨナラ負け。秋の日本一は今年も達成できませんでした。

元山選手が初代表 日米大学野球出場

7月16日に開幕した第43回日米大学野球選手権大会に出場する「侍ジャパン大学日本代表」に、本学硬式野球部から元山飛優内野手（3年）が出場しました。初代表だった元山選手は強肩と守備範囲の広さ、ハンドリングの巧みさを持つ遊撃手で、本学では2年時からレギュラーとして出場しています。

また、12月には今年6月26日開幕のハーレム国際大会出場24選手を選出する代表候補合宿が愛媛・松山で行われ、元山選手に加え山野太一投手（3年）が初参加。両選手は3月16-18日に神奈川・平塚で行われる最終選考合宿にもメンバー入りしました。

軟式野球部も2連覇ならず

第42回全日本大学軟式野球選手権大会が2019年8月20日から行われ、軟式野球部は準々決勝で同志社大学に2-3でサヨナラ負けしました。初戦の2回戦で熊本県立大学に5-0で快勝し臨んだ一戦でしたが、終盤にミスが連発しまさかの敗戦。本学初の大会2連覇はなりませんでした。

となりました。

上回った本学が優勝。これで男子が通算30度目、男女合わせ46度目の日本一



劇的な逆転優勝に選手、スタッフも笑顔
で関主将（左）を迎える

【通算成績】

- | | | |
|-----|--------|-----------|
| 1位 | 東北福祉大学 | (271、280) |
| 2位 | 1ストローク | (271、280) |
| 5位 | 日本大学 | (275、276) |
| 5位 | 1ストローク | (275、276) |
| 3位 | 大阪学院大学 | (281、282) |
| 563 | ストローク | (281、282) |

空手道部笠原さんら 宮城の日本一に貢献

内閣総理大臣杯第62回全国空手道選手権大会が2019年7月6、7日に東京・武蔵野の森総合スポーツプラザで行われ、1チーム3人(男子2人、



大会に参加した空手道部の左から高橋秀士さん、笠原さん、生出さん、辺見萌乃佳さん、瀬谷さん

女子1人)での都道府県対抗団体戦(組手の部)に宮城県代表として笠原理子選手(教

短剣道同好会が 全国上位を独占

育3年）が中堅、瀬谷龍介コーチ（東北福祉大学職員）が大将として出場、決勝で連覇を狙う埼玉県を2-0で下し県初の優勝を果たしました。

第38回全日本学生銃剣道選手権大会
短剣道の部が2019年11月2日、
神奈川県横須賀市の陸上自衛隊武山駐
屯地体育館で行われ、短剣道同好会の
選手たちが出場、男子団体戦で優勝、
個人戦では優勝、準優勝、3位と上位
を独占しました。

【団体戦】

- ▽1 回戦
東北福祉大学 2-1 防衛大学校 D
▽準決勝
東北福祉大学 3-0 防衛大学校 C
▽決勝
東北福祉大学 3-0 防衛大学校 B
- 【個人戦】
優勝：石川達也、準優勝：工藤勇人
3位：中川晋久



左から個人戦優勝の石川さん、準優勝の工藤さん、3位中川さん

パラスポーツ運動会
アドバンス全国3位

車いすスポーツの普及をメインに活動するハンディスポーツアドバンスチーム（以下、アドバンス）が2019年3月17日、東京都内で行われたパラスポーツ運動会「あすチャレ！ 運動会日本一決定戦！」に東北福祉大学として出場しました。大会は全国8チームが、5つのパラスポーツ競技による総合得点で順位を争い、東北代表のアドバンスは最終種目の車いすリレーで1位となり総合得点234点、逆転で3位となりました。



逆転での3位にアドバンスの学生たちは笑顔

陸上部男子7年ぶり 伊勢路を駆け抜ける

大学駅伝日本一を決める「全日本大学駅伝対校選手権大会」が11月3日、名古屋・熱田神宮〜三重・伊勢神宮の8区間106.8kmで開催され、陸上競技部・男子駅伝チームが7年ぶりに出場しました。部員数は出場校の中で最も少ない12人。第3中継所で繰り上げスタートとなり、たすきをつなぐことはできませんでしたが、東北代表として全国に挑みました。

アンカーはチーム唯一の4年生で、主将としてチームを引っ張ってきた松田健汰選手（産福）。「全国出場は入学



温かい声援を受け、アンカーでゴールした松田選手

陸上部女子三浦選手が 3000mSC全国2位

した時からの目標だった。後輩たちにも支えられてここまで来ることができた」と自身初となる全国の舞台で、4年間の思いを胸に伊勢路のゴールへ駆け抜けました。走り終えた松田選手は「走力はもちろん、いろいろな部分で全国レベルとの差を感じた。全国で戦えるチームになるため、目標を明確にし、意志を強く持つて達成してほしい」と後輩たちに託しました。

6月9日までに平塚市のShonanBMWスタジアム平塚で開催された2019日本学生陸上



日本陸上競技選手権で力走する三浦選手（右）

女子バレーボール部 戸部選手が大学選抜

女子バレーボール部戸部真由香選手（4年、写真）が「2019V・サマリーリーグ女子東部大会」の大学選抜18人



競技個人選手権大会で、女子3000m障害物（SC）に出場した陸上競技部の三浦佳奈選手（保健看護3年）が10分19秒59で2位に入り、自身全国初の表彰台に立ちました。本学入学からこの競技を始めた三浦選手は6月29日、第103回日本陸上競技選手権大会の同種目にも出場、国内最高峰のレースで決勝に残り12位となりました。

また、10月27日に仙台市で行われた第37回全日本大学女子駅伝対校選手権大会にも3区走者として出場、過去最高タイの14位に貢献しました。

サッカー部に女子新設 松村利子さん監督就任



2019年4月からサッカー部に女子部門が新設され

ました。監督には松村利子氏（写真）が着任。松村氏は聖和学園高校（宮城）で全国3位を経験し、同志社大学大学院を修了後、スペインへ留学。スペイン3部でプレーしながら、同国で指導者ライセンスを取得した経歴を持ちます。女子部員2人からと苦難の門出となりましたが、まずは来年度以降、単独チームでの出場をめざしていきます。

にミドルブロッカーで選出され、2019年7月5日から神奈川・藤沢市の秩父宮記念体育館で行われた同大会に出場しました。Vリーグチームが出場する全12チーム中、大学選抜の7位に貢献、存在感を見せました。また、女子バレーボール部は11月末に第66回女子全日本大学選手権に出場、3回戦で関西女王の京都橘大学にフルセットの末に敗れ、3年ぶりの8強進出はなりませんでした。

EVENTS NEWS 1

秋田県と締結

連携協力協定

東北福祉大学は2019年6月18日、秋田県庁で「秋田県との連携と協力に関する協定」を締結しました。宮城県外の自治体とは2018年4月の山形市に次いで2例目になります。協定の目的は「相互に連携・協力に努め、秋田県の地域福祉の推進と秋田県出身の学生を中心にAターン（秋田県へのUターン・Iターン・Jターンの総称）の促進を図る」ことで、内容は①地域福祉を推進するための助言や取り組み支援 ②災害時の福祉支援体制の構築 ③福祉人材等の確保・育成など。

出席した佐竹敬久知事は「災害時支援などの助言をいただき、さらなる人材の確保を進めたい」と語りました。今年度はこのほか、宮城刑務所、石巻市、鹿角島県庁、塩竈市と包括連携協定等を締結しました。



協定書を手にする佐竹知事と大谷学長（右）

初めて営まれる

達磨忌法要

2019年10月2日、国見キャンパス法堂で達磨忌（だるま忌）が初めて営まれました。「七転び八起き」のことわざや「ダルマさん」の愛称で知られている達磨大師は、初めてインドから中国に禅の教えを伝えられた方で、禅宗の初祖と言われています。赤い縁起達磨は、達磨大師が寒さよけに頭から「被」と呼ばれた掛け布団をかぶって坐禅している姿がもとになっているとされます。

達磨大師は、中国北魏・梁代頃に、インドから来た渡来僧と伝えられ、釈尊から数えて28代目の祖師、中国禅宗の初祖とされています。達磨大師は10月5日に亡くなったといわれ、その命日にあたり報恩の法要を営み、遺徳をしのぶ日となっています。法要では、斉藤仙邦教授が導師を務め、厳かに営まれました。



法堂で厳かに営まれた達磨忌

音楽ライブを実施中

東口学食「Olive」

2019年1月25日に仙台駅東口キャンパスに新設された学食「TFU cafeteria Olive」では、夜の貸し切り営業で数々の音楽ライブが行われました。今年度は予定も含め約20回で、その多くのライブ音響を学生サークルのけやきクラブがサポートしています。

「Olive」は教職員、学生向けの価格設定もなされ、今年1月7日からは営業時間が下記のとおりに変更になりました。今後とも学食の概念を超えた、さまざまな利用が予定されています。

- 営業時間…10時30分～21時
- 10時30分～11時30分…朝のティータイム
- 11時30分～14時…ランチタイム
- 14時～17時…お昼のティータイム（LQ、16時30分）
- 17時～21時…ディナータイム（LQ、20時30分）
- 定休日…無休（年末年始を除く）



ライブ音響を担当したけやきクラブ

EVENTS NEWS 2

宮城県警察本部から感謝状

サイバーボランティア

情報福祉マネジメント学科学生60人が委嘱されている「サイバー防犯ボランティア」の活動結果報告会が2019年12月17日、仙台市青葉区の宮城県警察本部で行われ、パトリール強化期間に顕著な活動を行った本学に感謝状が贈呈されました。

サイバー防犯ボランティアは、宮城県内では一般、大学生らが参加し、インターネット上に氾濫する違法・有害情報を発見し警察に通報する活動を行っています。

感謝状贈呈式には本学代表として3年生の

蘇武由樹さんと中野渡風香さんが参加。中野渡さんは「犯罪の芽をつむことで、子どもたちが安全に使える環境になってほしい」と話しました。



贈呈式に出席した右から情報福祉マネジメント学科・大内誠学科長、中野渡さん、蘇武さん

船渡教授に任命状

東北方面隊オピニオンリーダー

医療経営管理学科科長の船渡忠男教授が「2019年度及び2020年度東北方面隊オピニオンリーダー」に委嘱され、2019年3月29日、仙台市の仙台駐屯地で陸上自衛隊東北方面総監の上尾秀樹陸将から委嘱状を手渡されました。

船渡教授は、2013年に発足した「EGB Bousai」の初代会長に就任、防災士資格を取得した学生を中心に防災活動に対する啓発・指導に当たってきました。また、救急救命士課程の学生に、自衛隊の訓練への参加を促すなど日頃の活動が評価されました。今回の委嘱に「(東日本大震災では)被災地は自衛隊に大変助けられた。若い世代に自衛隊の役割を伝えるとともに、いろいろな観点から提言していきたい」と話しました。



委嘱状を手にする船渡教授(右)

学生、卒業生、教員が参加

元気！健康！フェアinとうほく

第11回元気！健康！フェアinとうほくが4月6、7日に青葉区の仙台国際センターで開催され、本学から多くの教員、学生、卒業生が参加しました。「多世代交流くみんで踊ろう創作群舞」では学生サークルの「Genki」とどけ隊」らが琉球舞踊を取り入れた創作群舞を披露。このほか、2日間で河村孝幸准教授らが講演、体験展示では斉藤仙邦教授、鈴木特任准教授がそれぞれ禅やロコモ体操を指南し、いずれも盛況となりました。



Genki とどけ隊は舞踊を終え笑顔

EVENTS NEWS 3

芹沢銈介美術工芸館



仙台駅東口キャンパスの芹沢銈介美術工芸館では、2020年1月11日から4月3日「芹沢銈介の釈迦十大弟子尊像展」を開催しています。本展では、当館が所蔵する貴重な型紙用下絵や初公開の肉筆下絵を紹介しながら「釈迦十大弟子尊像」の制作に迫ります。休館日は会期中の月曜日（ただし2月24日は開館、2月25日は休館）、入館料は一般400円、大学・専門学校学生300円。

◆2019年の展示実績

「夏を彩る藍色のれん—芹沢銈介作品より—」（5月21日～8月18日）
「芹沢銈介のデザインノート—ポスター・看板・サイン・パッケージ—」（9月19日～10月20日）
「クリスマス企画展 Greeting 芹沢銈介からの贈り物—型絵染作品—」（12月3日～12月26日）

TFU ギャラリーミニモリ

仙台駅東口キャンパスのTFUギャラリー Mini Mori では、今年度、ストリートチルドレン芸術祭（2月8、9日）、宮城刑務所矯正展（2月15、16日）、写真展「紛争下を生きる子どもたち」（2月21日～23日）が予定されています。

◆2019年度の展示実績

第82回河北美術展（4月25日～5月7日）
ミニモリサポーターズ第3回自主企画「ハバリウムの小さな森」（6月23日）
まなべる！ 映える！ 新世界『透明標本』展（7月13日～25日）
第66回河北書道展（9月1日～8日）
ピクサー・ザ・フレンドシップ〜仲間といっしょに冒険の世界へ〜（9月13日～10月14日）
千葉和男の世界展（10月17日～11月3日）
第28回河北工芸展（11月6日～11月11日）
第12回河北小中学生書道展（11月22日～24日）
ミニモリサポーターズ第4回自主企画「消しゴムはんこを作ろう」（11月24日）
リラックマとカオルさん展／おつきなすみつこぐらし展（11月30日～12月24日）
原秀一回顧展（2020年1月10日～21日）



「消しゴムはんこを作ろう」のようす

鉄道交流ステーション



を展示中です。克雪に向けたさまざまな努力や改良に着目し、鉄道発展の歩みをたどりま。入場は無料。

また昨年6月、鉄道交流ブックレット04号「むかし、秋保まで鉄道が走ってた。」を発行しました。廃止から58年を経た今も人々の記憶に残る、秋保電鉄の魅力を網羅的に紹介した1冊です。

◆2019年の展示実績

第35回企画展「実を結ぶ交流電化『43・10（よん・さん・とう）』ダイヤ改正と東北の鉄道」（2018年12月4日～3月2日）
第36回企画展「西公園C601ものがたり」（4月5日～7月6日）
第37回企画展「仙山線 ものを運ぶ」（8月1日～11月2日）

東北福祉大学のオリンピック・パラリンピアン

今年7月24日から、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。本学関連では、軟式野球部OBの大山重隆さんがクレ射撃代表として内定。このほか、ゴルフ競技で松山英樹さん、パラリンピック車椅子バスケットボールでは藤本玲央さん、萩野真世さんの出場に期待がかかっています。

これまでオリンピック・パラリンピックに出場した本学関連の選手を振り返ります。



1983年、ユニバーシアード出場前の佐藤伊知子さん（現本学准教授）。卒業後にNEC入りし本学関連では五輪出場第1号



1989年、大学日本代表になった矢野輝弘さん（左、現輝大、阪神監督）。中央は現硬式野球部監督の大塚さん、右は元横浜の佐々木さん



2000年、シドニー五輪で力投する吉見祐治さん。在学時の五輪出場は本学では唯一



2007年、大学4年時の鈴木明子さん。冬季五輪出場は鈴木さん1人のみ

東北福祉大学のオリンピック、パラリンピック出場選手

年	開催地	競技	名前	出場時所属	在学時所属	メダル
〈夏季オリンピック〉						
1988	ソウル	バレーボール	佐藤伊知子	日本電気	女子バレーボール部	—
1992	バルセロナ	バレーボール	佐藤伊知子	NEC	女子バレーボール部	—
1996	アトランタ	野球	野島 正弘	日本石油	硬式野球部	銀
2000	シドニー	野球	吉見 祐治	東北福祉大学 4 年	硬式野球部	—
2000	シドニー	野球	鈴木 郁洋	中日ドラゴンズ	硬式野球部	—
2000	シドニー	トライアスロン	西内 洋行	チームテイケイ	水泳部	—
2004	アテネ	野球	和田 一浩	西武ライオンズ	硬式野球部	銅
2004	アテネ	トライアスロン	西内 洋行	チームテイケイ	水泳部	—
2008	北京	野球	矢野 輝弘	阪神タイガース	硬式野球部	—
2016	リオ	バレーボール	佐藤あり紗	日立リヴァーレ	女子バレーボール部	—
2016	リオ	ゴルフ	池田 勇太	日清食品	ゴルフ部	—
2020	東京	クレ射撃（内定）	大山 重隆	大山商事	軟式野球部	—
〈夏季パラリンピック〉						
1988	ソウル	陸上・砲丸投げ、やり投げ	小倉 利明	東北福祉大学 1 年	陸上競技部	銀、銅
2000	シドニー	陸上・砲丸投げ、円盤投げ	中嶋嘉津子	東北福祉大学職員	—	—
2004	アテネ	陸上・砲丸投げ、円盤投げ	中嶋嘉津子	東北福祉大学職員	—	—
2004	アテネ	車椅子バスケットボール	藤本 玲央	宮城 MAX	—	—
2008	北京	車椅子バスケットボール	藤本 玲央	宮城 MAX	—	—
2012	ロンドン	車椅子バスケットボール	藤本 玲央	宮城 MAX	—	—
2016	リオ	車椅子バスケットボール	藤本 玲央	SUS	—	—
〈冬季オリンピック〉						
2010	バンクーバー	フィギュアスケート・シングル	鈴木 明子	邦和スポーツランド	フィギュアスケート部	—
2014	ソチ	フィギュアスケート・シングル、団体	鈴木 明子	邦和スポーツランド	フィギュアスケート部	—



チリのパラアスリートも BOSA I 運動会を体験

チームに
したレン
ジャー
ショーも
行われ、
会場を盛
り上げま
した。

BO S A I 運動会は学生が中心となり企画・運営を担当し、本学がエコノミークラス症候群の予防を目的に考案した「さんあい体操」、防災〇×クイズなどを行いました。また、災害を

いて学び交流を図りました。BO S A I 運動会は学生が中心となり企画・運営を担当し、本学がエコノミークラス症候群の予防を目的に考案した「さんあい体操」、防災〇×クイズなどを行いました。

この交流会は、2020年パラリンピックに向け、チリ選手団のホストタウンとして事前合宿を受け入れている加美町が、防災教育や異文化理解を目的に実施したもの。チリのカヌー選手団3人と加美町鹿原地区の小中学生ら約30人が、体を動かしながら防災につ

「カヌーパラアスリート歓迎交流会

with BOSA I 運動会」が9月

7日、加美町・中新田総合体育館で行

われ、本学学生18名が参加しました。

パラアスリート歓迎交流会
with BOSA I 運動会



硬式野球部や陸上競技部など体育会学生らは複数回にわたって活動

台風 19 号災害ボランティア 延べ 326 人が参加

2019年10月11日から12日にかけて上陸した「令和元年台風19号」により、各地で甚大な被害が生じました。この災害に対して、本学では10月18日から支援活動を開始しました。12月末までに本学から派遣されたボランティアは、学生延べ268人、教職員延べ58人の計326人。宮城県内5市町（角田市、名取市、大郷町、丸森町、亘理町）で主に被災民家周辺の泥かきや家具運び出しを行いました。

ボランティア支援課・鶯橋徹課長によると「現地ではまだ人手が足りない、との声を頂いている」と丸森町を中心に、未だ復旧とはいえない地域が多く残っているとのこと。今年も東北福祉大学はこの台風19号による被災地域に対し、支援活動を継続していく予定です。

※本号より東北福祉大学通信は年1回の発行となりました。
次回は2020年12月末を予定しています。



家屋からかき出した泥をトラックに積む学生たち=2019年11月27日、丸森町



ボランティアセンター近くに積み上げられた瓦礫の山=2019年11月27日、丸森町